

動労の変質を糾し 真に闘える労働運動の創造を

2.10 才32回 臨時地本大会 圧倒的成功をかちとる

「本本」(究明) 脱会。三里塚連帯。貨物安定宣言「廃棄」
全代議員満場一致、闘う方針を確認！

才32回地本臨時大会は、2月10日、千葉市・青雲閣で開催され、代議員・傍聴者三〇〇名が結集し圧倒的成功をかちとった。

この向の革マル派とそれに追いつく一部反動分子による規約・規則無視・株南運営ルール無視の千葉地本排除組織破壊攻撃に対する怒りと、決然としてこの理不尽極まる攻撃を粉碎し、動労本来の階級的・戦闘的労働運動を守り、自らの職場と生活を守り、激動の八〇年代を階級的に切り開く労働運動の先頭に起るとする決意に燃えた組合員が早朝から続々と結集し、この圧倒的高揚の中で、動労千葉地本一四〇〇名組合員の進むべき道ははっきりと確認されたのである。

動労の戦闘的伝統を正しく継承する者はわれわれだ！

この才32回地本臨時大会の圧倒的成功は、才一に「2.10 水本集会」を理由として、千葉地本の大会開催を認めないとする中央本部、及び革マル派とそれに追いつく一部反動分子の攻撃をはね返し、「水本」「三里塚敵対」「貨物安定宣言」をテロ・リンチによってセクト的に引きまわろうとする動労運動の変質を糾し、多くの組合員が血と汗の苦闘をもって築きあげてきた動労の戦闘的伝統を正しく継承する方向性を明確にし、四万七千組合員に動労運動の改革を呼びかけ、

才二に 激闘の八〇年代労働運動のあるべき方向性を全労働者・人民に呼びかけるものとしてかちとられたのである。

反対同盟、熱烈な連帯の挨拶

大会は9時40分、労務財政部長の南会のことばで始まり、議長団に片岡(津田沼)、大須賀(成田)両代議員を選出、奥川委員長の決意をこめたあい

さつ、西森副委員長からの経過報告、中野書記長からの方針提起の後、支援共働会議・浅田光輝世話人、三里塚芝山連合空港反対同盟・石橋副委員長、石井武史行役員からの熱烈な連帯のあいさつをうけて昼食に入った。午後から提起された方針案の討議と「元号法制化策動粉碎のため」と題する丸山照雄(日蓮宗僧侶)、「労働運動の現状と動労千葉地本の位置」と題する高島喜久男(労働運動研究家)両氏の講演を受け、闘争宣言を採択、組合歌合唱、そして奥川委員長の音頭による団結ガンパローをもって終了していった。

労働者の本質的利益を守る闘いへ！

われわれは才32回臨時地本大会を期して労働運動の新しい歴史「戦闘的労働運動復権」に向けて確信にみちた才一步を踏み出した。

体制的危機の深化の中で八〇年代の労働運動が厳しい闘いを強いられることは必至である。そのような情勢の中で「水本」「謀略」「貨物安定宣言」という変質した路線で組合員の利益が守られるはずもないことは明白である。われわれがめざす闘いは動労本来の戦闘性に立脚し、労働者の本質的利益を守る闘いである。

圧倒的成功をかちとったこの才32回大会の基本路線を全支部・全職場の中で具体化する。全国の心ある仲間と共に、真に闘い得る労働運動を創造してゆこう。

